参院社民党は現状維持 ラサール石井氏議席獲得

７月20日投開票で参議院議員選挙が行われ、社民党は大椿ゆうこ副党首の議席を失ったものの、ラサール石井氏の議席と、得票率2.06%を獲得し、政党要件を辛うじて守った。主権者の暮らしを顧みることなく、軍事拡大に向かう政治の流れを止めなければとの思いでの闘いだった。結果は参議院でも政権与党の過半数割れを実現でき、ご協力いただいた皆様に感謝です。

「徴兵制」、「核の抑止力」、「排外主義」等々声高に叫ばれる今、私はぶれずに『がんこに平和』を言い続ける社民党の一員として、決意を新たに今後も声を上げ続けます。

特別表彰 議員在職20年

私は全国市議会議長会から議員在職20年の表彰を受けました。 振り返れば1989年市議補選に立候補、初当選して以後、多難な30数年が経過。2022年12年ぶりに市議会に復活。　皆様のご支援があっての在職20年であることを実感。改めて、皆様方に心から感謝申し上げます。

関東大震災後の虐殺犠牲者追悼式

福田村事件に学ぶ講演会実行委員会では、下記日程で「第2回関東大震災後の虐殺事件犠牲者追悼式」を開催します。先の参院選で強まっている排外主義に対し、私たちは今一度、多様な人権尊重を考えたいと存じます。皆様のご参加をお待ちしています。

記

日　程　2025年9月6日(土)10時～11時半
会　場　馬橋東市民センター　ホール
主　催　福田村事件に学ぶ講演会実行委員
（工藤鈴子市議ほか超党派の市議・県議・市民）
後　援　松戸市・松戸市教育委員会
問い合せ先　工藤鈴子　松戸市議会議員
TEL/FAX　047（368）9362

９月議会の日程表

９月５日（金）　９月定例市議会初日
８日（月）～12日（金）　本会議　一般質問他
16日（火）　総務財務常任委員会
17日（水）　健康福祉常任委員会
18日（木）　教育環境常任委員会
19日（金）　建設経済常任委員会
22・24・25・26日　決算審査特別委員会
30日（火）　９月議会最終日
松戸市政についてご意見やご要望など
お気軽に工藤までお寄せください。
松戸市議会や工藤鈴子のHPもご参照を！
自宅　TEL/FAX　047－368-9362
E-mail　kudosuzuko3@gmail.com
HP；https://kudosuzuko.net

松戸市議会議員（社会民主党公認）
工藤 すず子
ホームページはここから
発　行　2025年 夏季号
〒271－0094
松戸市上矢切1451－4
TEL/FAX　047（368）9362
E-mail：kudosuzuko3@gmail.co m
HP：https://kudosuzuko.net

議会報告 第87号（6期第11号）

新市長の選挙公約から質問
政治姿勢を確認！

本郷谷前市長の突然の辞職により、急遽市長選挙が６月１日投開票で行われ、６月議会は松戸新市長による召集で18日開会、７月２日閉会で開催。よって、６月議会の質問は主に新市長の政治姿勢の確認となりました。

翌日から参議院議員選挙がスタートし、議会報告が遅くなりましたが、以下にその概要を報告します。

一番目の公約は防災・減災
ならば老朽東海第二原発の再稼働を市長はどう考える

質問

市長選挙公約の一番目は「防災・減災の推進」が掲げられている。2011年東日本大震災の経験から見て、原子力発電所と災害対策は深い関わりがある。市民のいのち・安全を守るべき市長として、稼働から46年経過した老朽原発再稼働への対応をどう考えるか。

市長答弁

質問の原発再稼働について老朽化に伴った火災発生のリスクや、耐震性への懸念が指摘されていることは承知している。原子力災害にあっては、まず市民の安全が最優先事項であり、過去災害の影響を受けている一方、電力供給の恩恵もある。稼働の是非は国のエネルギー政策等、立地自治体の意向など尊重しながら、総合的に判断がなされる事項であると考えている。（再稼働への直接的意見述べず！）

外国人住民の増加に伴う不安の高まりに対策を強化するとあるが、外国人差別・人権問題とも思われ、真意を尋ねる

他市議の同趣旨の質問に、市長は「市内の外国籍市民は約25,000人、人口の5%を占め増加傾向にある。生活上のルールやマナーをはじめ、行政サービスや防災情報について、言葉の壁による誤解や孤立が生じないよう、多言語等による対応を強化する必要ある。私が目指すのは外国人、日本人の区別なく誰もが安心して暮らせる街になること。情報提供や相談体制の強化を進める。」とのこと。

工藤の想い

７月に行われた参議院議員選挙では、自分たちの暮らしが厳しくなった原因が、あたかも外国人優遇のためとか、外国人が増えて治安が悪くなった等、排外主義が肯定されるような社会状況に不安を感じ、大変残念に思います。

副市長人事案、反対20賛成22で可決

政策実現フォーラム・社民の主張

採決の結果議案第 10 号副市長の選任について、会派 DERI 幹事長の反対討論を掲載（要約）

副市長は市長を補佐し、市長の命を受け政策・企画の推進をし、市役所の各組織の事務を監督するもので、行政運営上の役割は非常に重要。

会派では本郷谷市政において、市役所移転建て替え等の政策そのものに反対をしてきたが、その決定プロセスにおおいに疑問を感じてきた。

東松戸病院閉院の決定の際、議会は新聞報道でそれを知り、市役所移転問題でも時間をかけて積み上げてきた基本構想を踏襲しているとは認め難い、段階的整備案というものが突然出され、議会への情報提供がほとんどないまま、閉鎖的な組織の中で大きな決断が繰返された。

もちろんその組織運営は、前市長の方針だったのだろうが、小玉氏が昨年就任後もそういう事が解消される事はなかったと認識している。これから松戸市は公共施設再編整備など幾つもの大きな決断を控えており、これまでのような不透明な決定プロセスでは禍根を残す。新市長には、前市長よりもオープンで議会や市民とも意見交換や情報共有しながらの市政運営を期待している。

そういう事を踏まえると、様々な選択肢の中から副市長を選んでいただきたいのが本音。

会派内での様々な意見・疑問ある

小玉前副市長は、官僚と副市長の職を辞して、言わば人生を賭けて前市長の後継指名として市長選に立候補したわけで、余程の思いがあったと思う。私が市長選での街頭宣伝をを見かけたおり、そういう小玉氏の覚悟が感じられる訴えだった。

●選挙で意見が対立していた候補者だったことが、今後国との交渉や庁内での調整などの際にマイナスに作用する事はないだろうか？

●新市長就任後、副市長二人を元の体制に戻すことで、松戸は変われるのかと疑問が生じ、合理的な説明がつかないのではないか？

●このような矛盾を感じる人事を通せば、市長だけでなく、議会も見識が問われることになりかねない？ 等々様々な意見があった .

質疑の中で、小玉氏がこの任期中に政治家を志すことはないと確認されたと言うが、市長選の際のホームページは未だに残っており、再び志す意思があるのではと感じる市民もいると思われる。本来なら、政策の擦り合わせだけでなく、これらも整理されてから、提案をされた方がと考える。

また、先の質疑の答弁で、事実とは異なる内容の報道に関して特に抗議等されてないことも判明。松戸市長のＳＮＳ等でも否定や訂正もされておらず、今日この場では説明はあったが、誤解されている市民も結構いるかと思われる。

いずれにしても、この副市長人事を選択する説得力のある合理的根拠を見出せず、今回の人事案には、会派として反対であることを表明する。

採決の結果

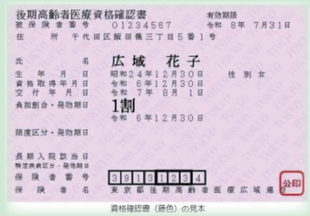
最大会派である市民クラブの市議からも反対の討論があり、賛否割れた様子。結果、採決では賛成 22 名、反対 20 名のぎりぎりの可決となった。

「市役所移転建て替え計画白紙撤回」その方向性を示すには時間かかる

市長選の争点にもなった、移転建て替え計画に対する質問には「これまでの経過等の情報公開は十分ではなく、一度立ち止まって、計画を見直す必要がある」との答弁であり、現地建て替えとの費用比較等内容の精査を十分に行うとのことです。

健康保険証廃止に伴い 資格確認書を発送

政府は本年７月末をもって健康保険証の発行廃止を強行。マイナンバーカードは任意であり、医療機関での受診時のトラブル等でマイナ保険証の利用拡大が進まない中、健康保険証廃止は大きな問題。他自治体で国保加入者全員に『資格確認書』（ほぼ従来の健康保険証と同様）を送付するところがあり、松戸市の対応を質問。



答弁

マイナ保険証利用者には資格情報のお知らせ（A4サイズの紙）を送り、従来の保険証利用者には『資格確認書』を、本人申請がなくても自動的に更新時期に交付する。 尚、マイナ保険証利用者にも資格確認書発行を対応することもある。

安心して医療機関を受診できるよう努める。

多様な学びの機会を提供する習い事への経済的支援！その真意は

現在の格差社会、経済状況を考えると習い事ができる家庭は基本的には比較的経済力がある家庭ではないかと思われます。もちろん子どものためにと何かしら無理をしながら習い事に通わせる家庭もあるかもしれません。

市長の考える習い事への支援の具体的内容等、その思いをお聞かせください。

市長答弁

子どもたちの多様な学びの機会の提供については習い事や体験活動など、学力だけでは測ることのできない、「生きる力」を育む大切な機会であると認識している。しかしながら、現在の日本社会において様々なスポーツや文化的な活動など、子どもの成長に大きな影響を与え得る多種多様な「経験」を「したいと思えば自由にできる子どもたち」と、「したいと思ってもできない子どもたち」がおり、そこに「格差」があるのが現状。本市として、経済的な理由で子どもたちがチャンスを奪われることなく、すべての子どもが多様な学びの機会を持つことができるよう、具体的な施策の検討をして参りたい。

特別支援教育現場での体罰と教員の虚偽報告への再発防止策

昨年 10 月に起きた特別支援学級に在籍する児童の指導として、教諭が教室から別室に移動し、児童をゴミ箱に立たせ、そのゴミ箱を教諭が蹴って児童が転倒、けがをする事案が発生。

本年３月になって、当該小学校の校長が警察から本事案の内容を聞き、事案発生後に教諭から聞いていた内容と齟齬のあることが判明。

問題への市教委の態度、再発防止策を質問。

答弁

教諭が記載した連絡帳は担任と保護者間のもので管理職や補助教員と共有はしていない。

事故発生後当該教諭の聞き取りや事故現場を確認したが、報告内容と事実は異なっていた。

保護者が警察に訴え、警察から学校への連絡により事実を学校が把握したことは教育委員会として重く受け止めている。

安心安全な学校に向けての再発防止策

◎校内に死角など物理的要因を排除する。

◎教職員の人権意識、規範意識の高揚を促し、高い倫理観を持って職務に当たる研修強化。

◎学校訪問に際し研修の実施状況の確認、指導

◎教職員が相談しやすい職場環境や組織的な対応に向けた行内体制の構築も必要と認識。

◎相談しやすい職場雰囲気の醸成や心理的安全性の確保を図り、担任一人で悩みを抱えることのないよう、指導助言を継続していく。